

(別添 2)

No.	1
策定年月	令和3年4月
見直し年月	-

麦・大豆産地生産性向上計画  
中山町長崎産地  
(作成主体:中山町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。

また、需要が高い品種の作付けを進めていくとともに、異常気象や固定団地での転作に対応した技術の導入により、単収の高位安定を実現する。

現在、中山町においては、水田フル活用ビジョンに基づき、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

・生産の9割以上を占める品種「里のほほえみ」を中心として約56t(令和2年産)が、主に豆腐向けに全農を経て全国に向けて販売されているが、生産年の天候等に左右され、安定的な収量を確保できていないため、収量の安定確保による生産量の安定化が必要である。

### (2) 生産における現状と課題

・近年、作付面積及び団地化率は、現状維持で推移しているが、近年頻発する長雨やゲリラ豪雨等の異常気象等の影響から、単収の年次変動が大きく、これに伴い生産量の変動も大きくなってきている。また、連作の影響からマメシンクイガの多発生や土壌の酸性化、地力低下等が単収の変動の要因として考えられ、改善が必要となっている。

一方、作業面では、作業機械の老朽化により故障が発生しており、適期作業に支障をきたしている。